

■ 5-6 ゲーム業界に就職するには

“ゲーム会社で働く”というゲーム開発を行う意味合いが強いが、営業や宣伝広告、販売を担当する社員、事務職を行う社員など、ゲーム制作に直接携わらない職種の人材も、他の企業と同様に働いている。

ゲーム会社の社員、スタッフ

- ト 一般職（営業、販売、人事部門、事務職など）
- ㇵ 開発職（第二章で説明した各クリエイター）

ここではクリエイターとしてゲーム業界への就職を希望する学生達に、就職のヒントとなる情報をお伝えしたい。

ゲーム業界に就職する第一の方法は、大学や専門学校の新卒者として就職活動を行い、ゲームメーカーの内定をもらって入社する方法だ。最も一般的な就職手段であり、大手メーカーと中堅メーカーがこの方式の採用を行っている。中規模未満の開発会社は各社のホームページで直接人員を募集したり、求人サイトを介して募集を行っている。小さな会社は人手不足になると募集を行う場合が多い。学生達はどうしても大手や中堅のメーカーにばかり目が行きがちであり、大手や中堅から内定がもらえるならそれに越したことはないが、正直な話、ゲーム業界にクリエイターとして就職するのはかなりの狭き門である。ゲーム会社の開発部門へ就職を希望する学生の数はとても多い。小さな開発会社の募集も調べ、応募できるところに手当たり次第応募するくらいの勢いがないと、新卒でゲーム業界に入ることはなかなか難しい。大手ゲーム会社の開発職への就職希望者は、職種にもよるが一般的に数十倍から数百倍、特にプランナーのような人気職への応募は数千倍の倍率になることもある。小さな開発会社でも入ることができればラッキーなのがゲーム業界だ。小さな会社で下積みを経て経験と知識を蓄え、希望する大手や中堅メーカーに転職する方法もある。

私は大学や専門学校で就職活動の助言や支援を行ってきたが、ゲーム会社に内定をもらえた生徒達はみな、学生のうちから積極的に作品作りを行っている。より多くプログラムし、より多く絵を描き、学生のうちにできるだけ能力を伸ばした生徒達から内定が決まっていく。**ゲーム業界への就職を成功させるには就職活動が始まるまでにより多くの作品を作っておく必要がある。**

それから面接を成功させるために重要なのが**コミュニケーション能力**だ。ゲーム制作は一人で行うものではない。プランナー、プログラマー、デザイナーなど様々なスキルを持つスタッフが力を合わせ、数ヶ月から1～2年の間、ゲームを開発していく。チーム内での意思の疎通が大切である。ゲームをどのような内容に作り上げていけば面白くなるかについて、時にチーム内で意見が対立することがある。その際、冷静に相手の話に耳を傾け、それが正しければ従うことができ、どうしても譲れない考えを自分が持つ時は、相手に理解してもらえるように冷静に意見を述べることができる、そういった真の意味のコミュニケーション能力が求められる。

面接の際、コミュニケーション能力に欠けると判断された学生は、そこで落とされる。

ではコミュニケーション能力を高めるにはどうすればよいか？

まずは普段から友人とディスカッションすることだ。自分は口下手だという学生も諦めることはない。就職活動のノウハウ本を読む（新聞にも就活を成功させる記事が載っている）、学校の就職支援課に相談する、担任やゼミの教授に相談する、各種のセミナーに参加する（但し怪しいセミナーには決して参

加しないこと)。

親子の会話も重要である。父や母、兄や姉、親戚のおじさん、おばさんなど、身近にいる企業勤めの方に面接のシミュレーションをしてもらう。親戚や知人にゲーム業界の関係者がいれば、話を聞いたり助言を貰う etc

またインターンシップを行っているゲームメーカーもあるので、それに応募してインターンに参加することはとても良い経験となる。

最後にもう1つの助言として、会社員として大切なことは色々あるが、一つ「自ら仕事する積極性」を挙げたい。特にゲーム開発のような曖昧としたアイデアを具現化していく仕事では、自ら考え行動する力が求められる。色々なゲームをプレイし、今どんな商品が世の中で流行っているか把握しておくことは、もちろん必要だ。アニメ、映画、小説、音楽、などゲーム以外の様々なコンテンツに触れ、感性を磨くことも大切である。「これは観ておけ」とか「これは読んでおけ」と言われるコンテンツがあるが、駄作であっても何かしらの参考になることが多いことを記しておく。例えばどうしてそれはヒットしなかったのかという分析は役に立つものである。

そしてゲームなどのコンテンツに触れることだけでなく、政治経済、医学や科学技術などにもある程度は興味を持ち、自分の生きるこの現実世界について基本的な知識を身に付けて欲しい。常識外れの学生は面接で失敗することを念のため記しておく。

学ぶこと努力することを怠らなければ道は必ず開ける。